解釈レベルと提示メディアが記述的規範の意味理解に及ぼす影響

尾崎 拓

(同志社大学大学院心理学研究科/日本学術振興会特別研究員 DC)

キーワード: 防災、記述的規範、解釈レベル理論

Effects of media and construal level on understanding of descriptive norms

Taku Ozaki

(Graduate School of Psychology, Doshisha University/JSPS Research Fellow)

Key Words: precautionary behavior, descriptive norm, construal level theory

目 的

社会規範は、「多数派の実際の振る舞い」にもとづく記述的規範と、「多数派がもつ、どのように振る舞うべきかについての信念」にもとづく命令的規範に区別される (Cialdini et al., 1990)。記述的規範による防災行動の促進効果はこれまで示されてきたが (大友・広瀬, 2007; 尾崎・中谷内, 2015)、記述的規範の影響過程は明らかでなかった。そこで、記述的規範が防災行動の実行意図 (Gollwitzer, 1999)、実行しやすさ評価、望ましき評価に及ぼす影響について検討した。行動の実行しやすさと望ましき評価は、計画的行動理論 (Ajzen, 1991) の構成要素であり、行動を規定する重要な側面であると位置づけられる。記述的規範による防災行動の促進は、多数派が防災行動をとっているという情報が、実行しやすさあるいは望ましきの手がかりとして機能すること原因だと考えられる。

また対象の解釈の仕方によって、実行しやすさに着目されるか、望ましきに着目されるかが変化することが知られている。解釈レベル理論 (Trobe & Liberman, 2010) によれば、低次解釈では実行しやすさに関する思考が、高次解釈では望ましきに関する思考が優勢になると想定される。本研究では、解釈レベルの操作が記述的規範に関する異なる意味理解を生じさせ、低次解釈では記述的規範が実行しやすさ評価を高め、高次解釈では望ましき評価を高めると考えた。

さらに、記述的規範を提示するメディアの違いによる影響が考えられる。解釈レベル理論では、図が低次解釈に対応し、文字が高次解釈に対応することが示されている (Camevale et al., 2014)。本研究では、提示メディアが解釈レベルに対応しているかどうか、記述的規範の意味理解に及ぼす影響についても検討した。

方 法

大学学部生 127 名を参加者とした。参加者は実験サイトに PC からアクセスした。独立変数は、解釈レベル (高/低、2 水準) および記述的規範の提示メディア (文字/図、2 水準) であり、いずれも参加者間要因であった。参加者はそれぞれの条件に無作為に配分された。解釈レベルは、「自分の健康を向上させること」の手段 (低次解釈) あるいは目的 (高次解釈) を記入することで操作した (Freitas et al., 2004)。教示に従わなかった参加者 8 名を分析から除外した。次に、記述的規範として、既存のインターネット調査の結果 (「調査対象者の 78% が非常食を備蓄」) を図あるいは文字で提示した。

従属変数として、災害用非常食の実行意図 (4 項目)、実行

しやすさ (3 項目)、望ましき (5 項目) をリッカート尺度 (7 件法) により、実験操作前後の 2 回測定した。最後に非常食備蓄状況についての質問項目を設けた。

結 果

実行意図、実行しやすさ評価、望ましき評価の変化量を従属変数、提示メディアおよび解釈レベルを参加者間要因の独立変数とする多変量分散分析を行った (Table 1)。いずれの主効果、交互作用ともに有意でなかった (解釈レベル: $F(3, 113) = 1.49, n.s.$; 提示メディア: $F(3, 113) = 0.14, n.s.$; 交互作用: $F(3, 113) = 0.50, n.s.$)。記述的規範の意味理解に対する解釈レベルと提示メディアの影響は見出されなかった。

次に、参加者の非常食備蓄状況という属性が交絡している可能性を考え、非常食の備蓄状況ごとに、実行意図、実行しやすさ評価、望ましき評価の変化量を従属変数とする多変量分散分析を実施した (Table 2)。すでに非常食を備蓄している参加者 ($n = 44$) に関しては、解釈レベルと提示メディアの交互作用が有意であった ($F(3, 38) = 3.16, p < .05$)。さらに各従属変数について分散分析を行ったところ、実行意図についてのみ、交互作用のみが有意であった ($F(1, 40) = 6.63, p < .05$)。このとき単純主効果が有意であり、解釈レベルが低次で、かつ提示メディアが図である場合に、実行意図が最も高くなることが示された。

考 察

記述的規範が実行しやすさと望ましきの評価として理解される際に、解釈レベルと提示メディアが影響を及ぼすという仮説は支持されなかった。しかし、すでに非常食備蓄を実施し、防災関連の情報に対して敏感であると考えられる参加者に限定すれば、記述的規範の実行意図に対する影響は、解釈レベルと提示メディアによって調整されること、すなわち低次の解釈レベルが適用され、その解釈レベルに対応するメディアを用いて記述的規範が提示された場合に限ってみられることが示唆された。

引用文献

Ajzen (1991), *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, 50, 179-211. / Camevale et al. (2014), *Social Psychological and Personality Science*, 6, 92-100. / Cialdini et al. (1990), *JSPS*, 58, 1015-1026. / Freitas et al. (2004), *JESP*, 40, 739-752. / Gollwitzer (1999), *American Psychologist*, 54, 493-503. / 大友・広瀬 (2007), 社心研, 23, 140-151. / 尾崎・中谷内 (2015), 社心研, 30, 175-182. / Trope & Liberman (2010), *Psychol. Rev.*, 117, 440-463.

Table 2 備蓄している参加者 ($n = 44$) の実行意図、実行しやすさ評価、望ましき評価の変化量

	解釈レベル低		解釈レベル高	
	図	文字	図	文字
実行意図	1.31 (1.16)	0.12 (0.77)	-0.14 (0.47)	0.25 (0.94)
実行しやすさ	0.33 (1.33)	0.31 (1.34)	0.00 (0.90)	-0.10 (1.31)
望ましき	0.56 (0.69)	0.25 (0.42)	-0.02 (0.47)	0.08 (0.65)

注: カッコ内は標準偏差

Table 1 実行意図、実行しやすさ評価、望ましき評価の変化量 ($n = 119$)

	解釈レベル低		解釈レベル高	
	図	文字	図	文字
実行意図	0.51 (1.01)	0.39 (0.73)	0.19 (0.90)	0.27 (0.80)
実行しやすさ	0.12 (0.97)	0.13 (1.14)	0.04 (0.80)	-0.13 (0.87)
望ましき	0.13 (0.64)	0.12 (0.48)	0.11 (0.57)	0.10 (0.72)

注: カッコ内は標準偏差